

第2回第3次世田谷区立図書館ビジョン策定検討委員会会議録要旨

日時：令和5年6月21日（水）午後2時00分～午後3時56分

場所：教育会館3階大会議室「ぎんが」

出席者：委員（12名）

松本（直）委員（副委員長）

上田委員、飯島委員、栄委員、新海委員

坂委員、福岡委員、金子委員

渡邊委員、松本（幸）委員、知久委員、齋藤委員（事務局）

事務局（3名） 齋藤委員を含む

その他

保坂区長

西村副会長（世田谷区立図書館運営協議会）

傍聴者：5名

議事進行：松本（直）副委員長

< 議事 >

1. 開会

「第3次世田谷区立図書館ビジョン策定検討委員会設置要綱」第5条第2項に基づき区長及び世田谷区立図書館運営協議会副会長が出席

2. 前回の議事録の確認

資料1「第1回第3次世田谷区立図書館ビジョン策定検討委員会議事録」に基づき、前回内容の確認

3. 図書館運営協議会より第2次ビジョンの評価について報告

資料2「令和4年度世田谷区立図書館運営協議会評価シート」、資料3「第2次世田谷区立図書館ビジョンに対する令和4年度世田谷区立図書館運営協議会からの意見等一覧」に基づき、図書館運営協議会副会長より、第2次図書館ビジョンの評価報告

< 質疑 >

- ・（副委員長）図書館による自己評価が妥当かどうか、図書館運営協議会で話はあったか。
- ・（副会長（図書館運営協議会））評価シートという形式的な制約もあり、定量的なアウトプットの評価以外のところを客観的に判断するのが難しいという議論は出てきた。定量的な評価を中心にしつつ、定性的な話なども協議会の中で委員のほうから随時質問をした。
- ・（副委員長）第2次図書館ビジョンの基本方針の中で、この方針は課題が残る、あるいは、うまくいっていない部分が多いのではないかというような議論はあったか。

・(副会長(図書館運営協議会))特定の方針に関して課題が多いという指摘はなかったが、資料3でコメントが多かったところは、指摘が多かったというふうに理解していただくとういのではないかと。基本方針1の中高生のところが少し弱いといった話や、基本方針2の選書の基準の話は比較的議論があった。

・(区長)二子玉川と三軒茶屋と下北沢に図書館カウンターを設置したが、利用が非常に伸びている。こういった施設は、長時間開室かつ新しい業態なので民間の皆様によっていただくのが適しているだろうと思っている。一方で、社会がより複雑になり、またコミュニティのつながりが希薄化する中で、図書館の利用者は、本を求める以外の課題やいろいろなものを背負っている。文化的、学術的、歴史的だけではなくて、人生を支える場といった意味が図書館にはあるのではないかと。本を貸し出す昔ながらの機能としての図書館から、なかなか抜け出せていない現状を認めつつも、いわゆる指定管理というところに基軸を移していけば万事よくなるという話でもないのではないかと。

・(副会長(図書館運営協議会))指定管理については、どう評価したらよいのかという、評価の仕方自体について議論があった。図書館運営協議会のほうで評価をしていくのか、指定管理者制度の選定、評価の委員会のほうでやっていくのかという仕分けや、情報共有が必要なのではないかと。図書館運営協議会としての意見ではないが、図書館と連携するイベントの際、区の直営の時よりも指定管理になった後の方が図書館の職員にご協力いただいた。いろいろとボランティアに手伝ってくれ、非常に頼もしく感じた。

4. 世田谷区立図書館の現状及び第3次図書館ビジョンの骨子について

資料4「世田谷区立図書館の現状」及び資料5「第3次世田谷区立図書館ビジョンの骨子(案)」に基づき、事務局より、図書館の概要、利用状況等の報告、第3次図書館ビジョンの基本理念、視点、基本方針について提案

5. 意見交換

<主な意見及び質疑応答>

・(委員)第1回で、不登校の子たちの居場所になれないかという意見を出したが、資料5の基本方針「子ども・若者の健やかな成長を支える図書館」に「居心地のいい、また安心してできる場所」とあり、そこに含まれると感じた。

意見を出した際に言及があった、武蔵野プレイスに行ったところ、中高生の居場所として20歳未満の人しか入れないフロアがあり、多くの中高生がいて、宿題をやったり本を読みながら調べたり、にぎやかに過ごしていた。飲食自由で、電子レンジも置いてあり、さらにアルバイトの大学生が何人か巡回していて、悩み相談やトラブルの仲裁をやっている。小学生や乳幼児のフロアもおしゃべりOKで、宿題をしてもいい座席やごろごろしていいスペースがある。世田谷区の図書館にもそのような空間が館内にあると、不登校の子たちの居場所としてもよいのではないかと。ぜひ検討してもらいたい。

・(委員) 三軒茶屋の近くには図書館や児童館がなく、駅の近くにそういった施設の設置を検討してもらいたい。駅の近くにあるからこそ、利用者が多いのではないか。駅から離れていると、武蔵野プレイスのような使われ方もされにくいのではないか。

・(区長) 区として、多世代が限られた施設を多様に使っていくようにできるといいと考えており、図書館も図書館としての活動というよりは、地域のニーズを捉えた場の柔軟な活用ができるとういと思っている。三軒茶屋は若者や子どもたちの居場所にできるような場所がなく、武蔵野プレイスの話も参考に考えていきたい。

居場所とは別の意味で利便性を高めるという方向だが、納税者の方に図書館をもっと身近に感じてもらうために、リクエストした本を駅前などに設置した宅配便ロッカーで受け取れるというサービスはいいのではないか。

・(委員) 第3次図書館ビジョンを策定するにあたって、図書館の現場の職員の意見や課題意識は反映されているのか。皆で考える場はあるのか。

・(事務局) 図書館の職員への意見募集はしており、意見をもらった上で今回の案を作成している。また、第3次図書館ビジョンの計画を実際の業務に落とし込むために、策定検討委員会の下部組織として、職員が集まる作業部会という組織を作り、具体的な取り組みについて検討していく予定である。

・(委員) 資料5の視点、「子ども・若者」のところで、子ども、若者の定義が、子ども条例の考え方や、区の考え方と一致していない部分があり、一緒に整理をしていきたい。

・(事務局) 子ども、若者の定義について相談しながらすり合わせをしたい。

・(委員) 第2次図書館ビジョンになかった方針として、「それぞれの特性に対応した、多様な人々を包摂する図書館」が入った。外国人の方や障害者の方へ向けて、こういったメッセージが入ることは、方針としてよいと感じた。

居場所としては、不登校の問題と同時に高齢の方の問題もある。いまの時期だと熱中症や省エネ対策としての公的施設のあり方という点でも図書館も担う部分があるのではないか。

指定管理に関してはそこで働く方々の賃金の問題や労働条件について気をつけなければならない、それを一つの評価軸にしてもいいのではないか。

・(副委員長) 指定管理については、区あるいは教育委員会がどう考えていくかということが重要になる。評価指標をしっかり考え、図書館運営協議会などを活用して評価をしてもらいたい。指定管理期間が終わる段階で評価をするような形にしたほうがいいのではないか。

・(副委員長) S D G s の考え方を、ぜひ取り入れていただきたい。施設面での取り組みもあるが、S D G s に関わるいろいろな事項を図書館サービスと絡めた取り組みがあってもいいのではないか。

・(副委員長) 「子ども・若者」のところで、本や読書ということに若干偏っているという気もしている。子どもたちはY o u T u b e と T i k T o k の中で生きている。そうしたものと親しむ場、いろいろなテクノロジーを学ぶ場、S T E A M 教育などと言われているが、そうしたものに取り組むことも、方向性としてはありうるのではないか。

・(委員)基本方針「区民の「知と学びと文化」を支える図書館」に関わりがあると思うが、保健所で働いていたときがん対策を担当し、がんに対する知識の啓発になるような専門書的なものを、図書館に並べてもらうということをやった。健康・医療情報は、どれが正しい情報なのか、たどり着くのが大変で、図書館でそういうものを提示していくのは、非常に安心感があってよかった。

・(副委員長)国立がん研究センターで、公共図書館に対してパンフレットを配る活動をしている。図書館は信頼できる情報を入手できる場であると、おそらく多くの市民・区民は認識している。そうした場を活かしていこうという取り組みがある一方で、図書館の蔵書を調べると、知識・情報としてどうなのかというものもかなり入っていることがある。医療・健康情報の中で信頼できる情報を提供していくことが、図書館にとって大事で、保健所や区の担当部署との連携が重要なのではないかな。

・(委員)格差社会で塾に行かれない子どもたちがいる。中高生の子たちの居場所という話の延長として、ぜひそういうところも図書館の中で、大学生のボランティアの子たちがいて、一人で勉強に来られるというようなものがあるといい。

・(区長)子どもたちの居場所になっていくために、宿題支援や無料塾といった子どもたちが可能性をつくり上げていけるような図書館の使い方を考えていきたい。高齢の男性の孤立もきわめて深刻で、郷土史や生涯学習的なメニュー、子どもたちに勉強を教えるといった、お互いが孤立・孤独を解消していく取り組みができないか。その場合、図書館で働く人の中に、ソーシャルコミュニティーワーカーのような職員が必要になるのではないかな。

また、これから何でもChatGPTという風潮だがChatGPTを使うには相当なリテラシーが必要。人とじっくり話し込むとか、対話やディスカッションをすとか、自分の意見を持っていたけれども人の意見を聴いて変えるということが、民主主義の基礎である。図書館の役割はそういうところにもあるのではないかな。

文化は、常に作り続けていかないと廃れていくもの。そういう意味で、貸出冊数のような評価軸だけでなく、図書館で何かきっかけを探そうという方たちもいるので、友達ができたとか、やることが見えてきたというような精神的満足度とか、この場があってよかったという幸福感を見ていくことも必要なのではないかな。理想論かもしれないが、変わっていく社会に対して、図書館が、人と人がつながるとか、対話するとか、真実を掘り下げるとか、年齢差なく、子どもだけ高齢の方だけではなく皆交じってできる場であると非常に魅力的なのではないかな。

・(委員)図書館ビジョンの上位計画である教育振興基本計画を現在策定しているが、策定にあたって、4月に施行された子ども基本法に基づき、子どもの意見を聴くためのワークショップを開催した。図書館ビジョンも子どもの意見をどう取り入れるか考えるべきではないかな。

民間活用に関しては、図書館の持続可能性を考え、今日いろいろなところで専門的な力を持つ人材が枯渇しているような状況がある中で、図書館を支える人材をどう確保していく

のかという視点も踏まえ検討していきたい。

6. まとめ

・(副委員長) 第3次図書館ビジョンの基本理念、視点、基本方針については、提案されたものを了承し、基本的に資料5の内容で進めることとしたい。

7. 次回開催日

第3回策定検討委員会 7月19日(水) 午後2時~
(当初予定の7月25日から変更されました。)